

## 年間第 19 主日 マタイ 14：22～33 主よ、助けて下さい

奇跡には、大きく 2 つの種類があります。1 つは、人々の前で病気の人を癒す奇跡です。もう一つが、イエス様が嵐を静めたり、湖の上を歩いたりする奇跡で「自然奇跡」と言っています。この「自然奇跡」が行われたのは、一般大衆の前ではなく、12 使徒などの弟子たちの前でした。弟子たちの信仰を試し、深めるためにイエスが「自然奇跡」を起こしました。

今日の福音では、信仰を試された弟子たちは、湖の上を歩くイエスに「幽霊だ」とおびえています。このおびえるは、原文のギリシア語では「ディエタラクティエ」が使われています。とてもニュアンスの強い言葉です。神様が示す新しい世界に触れた人が受ける衝撃の大きさを示しています。他に同じ言葉「ディエタラクティエ」が使われているのは、マリア様がガブリエルのお告げを受けた時「何のことかと考え込んだ」(ルカ 1：29) があります。他には、「新しい王が生まれると聞いてヘロデ王が不安を抱いた時」(マタイ 2：3) にも使われています。「考え込んだ」り「不安を抱いた」あとの行動の違いが対照的です。マリア様は「お言葉通りにこの身になりますように」と神様の計画を受け入れます。一方のヘロデは、救い主を殺そうとしてベツレヘム周辺の 2 歳以下の男の子を皆殺しにします。神様の計画に徹底的に反対します。「ディエタラクティエ」のあとの反応がとても大切です。

今日の福音では、弟子たちはおびえますが、ペトロだけは「私にも水の上を歩かせて下さい」と挑戦します。けれども、強い風が吹いて怖くなってイエスに助けを求めます。

「イエスについていきたいけど不安になる」この箇所を読むと、イエズス会に入って 2 週間経った時の出来事を思い出します。私は、2000 年の 3 月にイエズス会に入りましたが、生活の細かいことを指導する 1 年先輩の人は誰もいませんでした。私たちは先輩なしで修練を始めなければいけませんでした。

成人洗礼で、仕事の関係で日曜日のミサにも殆ど与っていない、また、イエズス会の神父さんの知り合いがほとんどいない私には、カトリックの世界、イエズス会の修道生活が全く分かっていませんでした。それなのに、年長者だったためか、3 人の修練者のまとめ役「ビデルス」に指名されました。勝手に分からないうえにリーダーの仕事を抑えつけて自信をなくしていました。そして、とうとう、入会して 2 週間後に、夜、修練長の部屋のドアを叩きました。「すみません。私は、イエズス会でやっていく自信がないのでやめたいです。」その時、修練長は「折角、家族のこともあって、会社を辞めてイエズス会に入ったのだから、祈りの習慣、できれば大黙想、30 日間の霊操をしてから判断したらいい。今辞めるのはもったいない」と言われました。それで、気を取り戻して・・・以来 20 年が経ちました。

あの時の状況と、今日の箇所が響きます。「自信がないから辞めたい」というわたしの言葉と、ペトロの「主よ、助けて下さい。」という言葉。修練長の「今辞めるのはもったいない」とイエスの「なぜ疑ったのか」の言葉。私の中では、重なって感じられます。

皆さんの中にも「イエスに従います。ついていきます。」と答えたものの、途中で怖くなって「主よ、助けて下さい」と叫んでしまうことがあるでしょう。それは、神様の計画がまだわかっていないことでの不安でしょう。そのような体験を経て、信仰はさらに深まります。神様は、小さな試練を与えて、先に大きな計画があることをわからせてくださいます。

不安や苦しみの先にある神様の計画を私たちが見つけられることを願ってミサを続けましょう。